

定例市政記者クラブ・市長懇談会（11月）の結果について

日時 平成24年11月6日（火）午後2時15分～午後3時
場所 消防本部4階視聴覚室
出席 市政記者クラブ8社

会見内容

1. 話題提供（5項目）

1. 平成25年度 釧路市予算編成について

- 本日、午後3時より、消防庁舎体育館において平成25年度予算編成説明会を開催いたします。
- 本説明会の冒頭において、各部各課より出席している経理担当職員に対して私の方より新年度予算編成に向けた話をします。
- 市長となって5回目となる予算編成であります。説明会での職員に対する指示、方針の話をするのは、平成22年度予算編成説明会以来であります。
- 当時は 財政の健全化が、釧路市にとって喫緊の最重要課題であり、私自身決して臆することなく、不退転の決意で取り組んでいくことを職員に訴え、また、厳しい状況を打開するためには、職員全員が危機意識を共有し、一丸となって取り組む必要があります。そのためには財政状況に対する共通認識が重要であることを述べたところであります。
- 当時、この説明会から程なくして第3セクターの経営改革プラン策定のため庁内プロジェクトを設置したことから、説明会が財政健全化の取組のスタートでもありました。
- 1期目の4年間におきましては、自主財源の強化と自らの創意による地域に合った施策の組立てが急務との認識の下、「財政健全化推進プラン」「市役所改革プラン」「政策プラン」から成る「都市経営戦略プラン」を策定し、前例踏襲型の行政運営から脱却し、都市経営への転換をはかるための改革に努めてまいりました。
- 2期目の4年間におきましては、確固たる行財政基盤に立って、釧路市が成長するための政策展開を示した政策プランを着実に実行に移していくことが最重要の課題となると考えております。

- 域内循環、人材育成・雇用、安全安心、拠点性を柱とする政策プランの実践は、この地域にとって「あきらめることなきできる道さがし」と考えており、基本となる政策を進めていきたいと考えております。
- 自らの意思をもって財政の健全化を図りながらも、持続可能な発展を目指すまちづくりを推進していくため、地域が抱える課題と正面から向き合い釧路市の持つ特性を最大限に生かしながらプラス成長を目指すため、限られた財源を選択と集中によって重点的に投資していく所存であります。

2. 釧路港の水揚げ状況について

- 釧路港の主な魚種の水揚げ状況についてお知らせいたします。
- サンマにつきましては、昨年同様8月から9月にかけて非常に低調な漁模様で始まりましたが、9月中旬から水揚げは本格化し、社団法人全国さんま漁業協会の集計によりますと、10月31日現在で釧路港の棒受網によるサンマ水揚げ量は2万2,482トン、金額は14億7,721万円となっております。
- それぞれ前年同期比は、数量は98パーセント、金額は65パーセントで、魚価安により金額は大きく落ち込んでおります。
- 道東4港（釧路・花咲・浜中・厚岸）の合計では12万626トンで、前年同期比102パーセントとなっております。
- 魚群の主力はすでに東北沖に南下し、11月に入りまして道東各港へは散発的な水揚げにとどまり、漁は終盤を迎えております。
- 次に秋サケにつきましては、北海道連合海区漁業調整委員会が集計した10月25日現在の漁獲速報では、全道の水揚量は約8万6千トンで、前年比7パーセント減となっておりますが、釧路市（釧路市漁業協同組合及び釧路市東部漁業協同組合合計）につきましては、不漁だった前年に比べ更に約2割減の400トン程度にとどまっております。
- 過去3カ年の全道の水揚げは、平成23年が11万トン、平成22年が12万2千トン、平成21年は15万2千トンでした。
- 北海道は試験研究機関の有識者らによる秋サケ資源対策会議を今年4月に設置し、このほど検討結果をまとめましたが、地域の実態にあった形で対応できるような改善に向けた取り組みを進めることとしており、全道の中でも釧路を含むえりも以

東海域の落ち込みが最も大きいため、その成果に期待しております。

- 最後にまき網漁業は10月31日をもって終了しましたが、釧路港には、サバが2,396トン、1億7,117万円、マイワシが1,658トン、3,916万円、カタクチイワシが1,504トン、3,477万円、合計5,558トン、2億4,511万円の水揚げがありました。
- 昨年に比べ数量は1,800トン、金額は1億7千万円上回ったことに加え、久々にサバのまとまった水揚げがみられ、マイワシも昨年に続き水揚げされるなど、資源回復に期待しているところであります。

3. 第14回釧路市景観賞の受賞者決定について

- 釧路市景観賞は、釧路らしい景観づくりに貢献している建造物や市民活動等を表彰することにより、景観に対する市民の皆様の意識を高めるとともに、良好な景観づくりを推進し、もって生活環境の向上と潤いのある個性豊かなまちづくりを進めるために行っているものであります。
- 第14回目の実施となります今年度は、7月23日から8月31日（40日間）にかけて候補の募集を行い、39件の応募があったところであります。
- この39件から、同一物件への重複応募や、市の施設など選考対象外物件を除いて整理いたしました結果、最終的な選考対象件数は24件となり、10月18日に開催いたしました選考委員会での審査を経て、4件の受賞を決定いたしました。
- 受賞者につきまして、簡単にご紹介させていただきますが、景観賞は2点ございまして、1つは、緑あふれる庭園に、阿寒の文化を表現したモニュメントが効果的に配置され、美しい景観を演出している「鶴雅ウィングス庭園遊歩道」、もう1つは、既存の店舗を巧みに再生して、落ち着いた色調と洗練されたデザインの建物に生まれ変わった「エヌシーくしろ」に決定いたしました。
- 景観賞奨励賞も2点ございますが、1つは、「木（もく）」を基調に統一された店舗のファサードがアイヌ文化固有の景観を作り出しているアイヌコタン、もう1つは、釧路の代表的な建物を折り紙にして、分かりやすく紹介している社団法人北海道建築士会釧路支部の“釧路折り紙建築を用いた活動”に決定いたしました。
- これら4件の受賞者につきましては、今後、市のホームページや広報紙などを活用しながら広くPRし、景観づくりに関する啓発に努めてまいりたいと考えております。

- なお、表彰式につきましては、11月29日午前11時から、市議会議場で行う予定であります。

4. 釧路市長特別表彰の贈呈について

- このほど、釧路市在住の漫画家小畑友紀さんに釧路市長特別表彰を贈呈することといたしましたので、ご報告いたします。
- ご案内のとおり小畑友紀さんは、釧路市を舞台にした「僕等がいた」を平成14年から小学館発行の少女コミック誌ベツコミに連載し、これまで16巻発行された単行本は、1,200万部を超える大ベストセラーとなっております。
- また、「僕等がいた」は、映画化され、人気俳優の生田斗真さん、吉高由里子さんが出演し、本年3月から前篇後篇の2部作連続で全国公開され、実に330万人動員の大ヒットを記録したところであります。
- この映画では、純愛ストーリーとともに全国に幣舞橋や新釧路川緑地、釧路駅など釧路の美しい風景が映し出され、大いに釧路市のイメージアップに貢献されたものであります。
- なお、市長特別表彰の贈呈につきましては、11月21日、市役所にて小畑友紀さんご本人へ、私が直接伝達させていただく予定であります。

5. 「城内循環 啓発用ロゴデザイン」決定後の事業内容について

- 釧路市中小企業基本条例を啓発する事業のひとつとして、11月1日(木)に「城内循環啓発用ロゴデザイン」を発表しました。
- 今後は、ロゴデザインを活用しつつ、城内循環を推進する事業者を募集する事業に入ることになっております。
- 城内循環推進事業者の募集につきましては、釧路商工会議所、北海道中小企業家同友会、中小企業団体中央会の共催で、募集ポスター・チラシを作成するとともに広報くしろ、市ホームページ、商業労政課フェイスブックなどで実施する予定です。
- ロゴデザインの活用方法といたしましては、担当課である商業労政課で発行する文書・職員の名刺などに印刷するほかに、城内循環 推進事業者にデータを提供し、名刺等 自由に使用していただくなど、さまざまな場面で活用し、市民周知を図り、地域の活力に結び付けたいと考えております。

- また、市ホームページへの掲載、商業労政課フェイスブックのプロフィール写真や域内循環推進事業者の認定証に使用するなど、ロゴの活用につきましては、随時検討してまいります。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 釧路市長特別表彰の贈呈者についてお聞きします。小畑友紀さんは何人目の表彰者になるのでしょうか。また、これまでの表彰者はどういった方々でしたか。

(市長)

- ・ 小畑友紀さんは20人目です。これまではオリンピックに出場された方への表彰が多かったのですが、小畑さんのような文化面での表彰は初めてになります。

(質問)

- ・ 小畑友紀さんの作品を原作にした映画「僕等がいた」は、純愛ストーリーでしたが、内容も含めて一番好きなシーン、印象に残ったシーン、感想などをお聞きします。また、映画を通じて釧路市の良さを再発見したということはありませんか。

(市長)

- ・ 映画「僕等がいた」は前編、後編ともに映画館で見ました。どのシーンというよりも、たくさん良いシーンがあったと思います。普段見ている街並みや景色が、映画の中で、映像の一つとして出てくることに感動を覚えました。

全国で330万人の方がご覧になられたとのことですから、釧路市にとっても非常に大きなイメージアップにつながったと思いますし、この映画をご覧になった他の地域の方々が、釧路の自然の美しさや街並みを見て、行ってみたいと思っていただけることが重要なことだと思います。

(質問)

- ・ 映画には、市の職員も含めて多くの市民が出演されていると思いますが、映画が公開されて、夏の観光面等で影響はありましたか。

(市長)

- ・ 観光については輸送力の問題もあると思います。今年、東京便についてはANAでは例年の倍、JALでは半月長く運航しましたので、そういった意味ではプラスになっていると思います。また、映画の公開によりこの間、釧路という名前がさまざまなニュースで発信されたり、テレビ番組の映画宣伝の中で紹介されたり、さらには夏涼しい釧路としてニュースで取上げられたり、そうしたことも含めてプラスになっていると思っています。

(質問)

- ・ 政策プランについてお聞きします。9月議会で示した内容はあくまでも素案で、今後、変えていくといった話をされていたと思いますが、その後、政策プランはブラッシュアップ（磨きをかける）されたのでしょうか。

(市長)

- ・ 政策プランは4つの中心的な柱とさまざまな個別の事業がありますが、そうした事業の取組みを進めていきながら、あわせて元気創造枠の活用も進めていきます。

(総合政策部長)

- ・ 政策プランについては、現在、市民意見提出手続（パブリックコメント手続）を実施しているところであり、今後、市民等から寄せられた意見を反映して、最終調整段階で若干の修正等はあるかと思いますが、それを含めて12月に成案となります。

(質問)

- ・ まき網漁業についてお聞きします。サバは以前獲れた時期があって、その後獲れなくなったようですが、加工業者の間ではサバが獲れることを前提にした設備投資に二の足を踏むようなことがあるようですが、こうした業界の動きについてどうお考えですか。

(市長)

- ・ 以前、釧路でサバが獲れた時は、企業の方で、釧路で獲れたサバをポスターでPRしていましたが、その後、しばらく獲れない状況がありました。釧路における加工処理施設の受入能力は全国でも優れた有数のものですが、今後、そうした施設をどのように活用するかが大きな課題になってくると思っています。加工業者の方々とも話を進めていくことになりませんが、最終的にどのような対応をとるかは加工業者側の対応になろうかと思っています。

(質問)

- ・ 12月定例市議会において、議員提案で「釧路市の子どもたちの基礎学力の習得を保障するための教育の推進に関する条例」の提出を考えているようですが、こうした動きについてどうお考えですか。

(市長)

- ・ 日頃から私達は次の世代を担っていく子どもたちに、どのような環境を与えることができるかを考えていかなければならないと思っています。
生きる力の一つである学力を上げていくことは、子どもたちの可能性を高めていくことだと思っています。こうした取組みを議員の方々が民間の方も含めながら

進めていくことはあり得ることだと思います。

(質問)

- ・ 条例そのものは良いということですか。それとも学力向上の取り組みが良いということでしょうか。

(市長)

- ・ いろいろな手法があると思います。これまでは、学力であれば学校が行うもので、関心の高いところでは、塾で学びながら高めていく、ということでしたが、今回のように、議員の皆さんが地域のことを考えながら取り組みを進め、その取り組みの中に多くの方々が参加していくことは、非常に良いことだと思います。

子どもの競争はだめだということで、運動会等で順位付けをやめて、皆で手をつないでゴールするといったこともあったと思いますが、こうしたことは運動ができる子どもの能力を発揮できる機会がなくなることにつながります。

子どもにはそれぞれが得意な分野があり、その中の一つとして学力があると思います。そうした学力を上げることに一生懸命頑張っている人がいる一方、全体的に見れば学力が低い部分もあるので、そこをしっかりと訓練していくということは当然必要なことだと思っています。

学力に関して言えば、訓練によりそれらの能力を高めることは可能だと思っています。小学校や中学校の間はしっかりと訓練して、後々の選択肢を増やしていくことは必要なことだと思います。

(質問)

- ・ 釧路市の学力の現状はどう思いますか。

(市長)

- ・ 学力向上は訓練により可能だと思いますので、能力向上につながる環境をどう整えていくかが大切だと思います。国語力という点で言えば、新興国では子どもの教育は語学が大事だということで、エンジェル係数（教育にかけるお金）がどんどん上がってきている状況にあります。そうしたことを踏まえますと、子どもたちの可能性を高めることについて、それぞれの家族も含めて社会的にも努力する時代だと思います。

日本の経済力が強かった頃は、世界の人々が日本のことを勉強するために日本語を覚えました。日本の経済力が落ちてきた今の状況を考えると、これからの子どもたちは英語が話せなかったら通用しない、ということも想定できる状況にあるのではないのでしょうか。釧路では特に数学の分野は強いのですから、そうした得意分野と、不得意分野を訓練しながら全体的に学力を高めていくということは重要だと思っています。

(質問)

- 先ほどの条例案では、学力については数値指標で把握できるものと定義しているのですが、その数値指標は全国学力テスト、市独自の標準学力テスト、文協テスト(学力テスト)とのことですが、そうした定義に関して、すでに大学の先生方から異論のようなものが出ていますが、この学力の定義についてどうお考えですか。

(市長)

- 今までのように、子どもたちの目が輝いた等の抽象的な成果では難しいと思います。教育の分野ではこれまで成果数値等はありませんでしたが、この分野でも何らかの尺度は必要だと思います。

(質問)

- 市内の塾の先生たちでつくる団体では、全部の学校ではありませんが、同団体のホームページで文協テスト(学力テスト)の学校別平均点を公開しました。そうした動きについてどう思いますか。

(市長)

- 何のために行うかということが重要だと思います。高校の偏差値について言えば公では認めていませんが、世の中にはたくさん出ています。これは当然、高校入試のためのものだと認識していますが、何を目的として、そうした公表が必要なのか疑問に思います。

この地域の子どもたちの選択肢を増やしていくためには、子どもたちの能力向上を図ることが必要になります。それは体力であったり、学力であったり、その他いろいろな分野があると思います。学力は訓練すれば向上すると思いますので、そこをしっかりと上げていくために取組むという考え方で進めていこうと思っています。

(質問)

- 条例で定める市長の責務について、教育委員会の機能強化に協力することや必要な財政上の措置を取る等となっています。昨日行われた議員の記者会見では、学力テストや学力の公開については最終的には公開すべきだが、現実的には公開の範囲等は教育現場である学校に任せる、ということだったと思います。こうした学力テスト等の公開のあり方に関して、市長の見解をお聞かせください。

(市長)

- 子どもたちの環境を整え、選択肢を増やしていくことを進めていく中で、市長の責務は極めて重要だと考えています。その点については、これまで行ってきたように、これからもしっかりと進めていきたいと思っています。そこに対しての差はないと考えています。

学力テスト等の公開についてですが、基本的に考えるのは、その目的が何であるかということです。目的を果たすために、どのような示し方をするかということが重要だと思っています。何のために行うか、その目的を念頭においた公開に努めていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 域内循環についてお聞きします。域内とは釧路市のことですか、それとも管内も含めたものですか。

(市長)

- ・ 最初は釧路市からの取組みになると思いますが、管内、そして、釧路・根室地域、東北北海道へと広めていきたいと思っています。その物によりまして拡大していくものと考えています。

(質問)

- ・ 活用方法に関してですが、地場産品を使った料理を出す店では緑の提灯（地場産品応援の店）を掛けていて目立っています。域内循環を推進している事業者を認定するだけでは気付かないこともあるかと思っています。より積極的に市民に向けて、このマークをサービスや商品に利用してもらい、多くの人に気付くようにしてもらおうとなお良いと考えますが、こうした取組みを行う予定はありますでしょうか。

(市長)

- ・ まずは域内循環の取組みをしっかりとPRし、皆さんに域内循環の意識を持ってもらうことが重要だと思っています。先ほど話した北海道中小企業家同友会や中小企業団体中央会以外の団体の中で、例えば、守成クラブでは、内部で活発化しようとしてどれだけの取引があるか等、域内循環を行っているケースもあります。そうした取組みを幅広く進めていく上で、市としましては今回の域内循環啓発ロゴデザインから行っていくとしましたが、今後、それらの取組みはバージョンアップされていくものだと思います。釧路市においては中小企業基本条例を制定し、円卓会議や木づなプロジェクトなどの取組みを進めていますが、基本的にはそうしたものをベースに考えています。

北海道では平成17年に域内循環をバージョンアップさせた産消協働の道民宣言を行っていますが、産消協働という言葉自体あまり知られていないように思います。そういった意味では域内循環、産消協働といったものをより高めていくために、ご指摘のことも踏まえながら、順次バージョンアップしていくよう取り組んでいきたいと思っています。

(質問)

- ・ JRに乗ると乗客向けに贈物カタログがあり、ここで紹介している商品には産地

や加工地が掲載されています。こういったものに、例えば、これは道内で獲れて釧路・根室地域で加工された等と表示することは、消費者に対して当地の信頼度を高めるためにも有効だと思います。

(市長)

- ・ ご指摘のような取組みに展開していくことが重要だと思います。産地は釧路で加工地は札幌というのも多々ありますが、地域における域内循環の意識を高めながら、域内循環を進め、こうした域内循環の取組みを通じて地域の活性化を図っていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 特例公債法案の遅れで地方交付税の配分が遅れていることについてお聞きしますが、政府の対応についてどう思いますか。

(市長)

- ・ 早く対応してもらわないといけない問題だと思います。遅れることで生じる金利は税金をもとに支払われるわけですから、お金の無駄遣いだと思います。